

今年度の特記事項

- ・ 母子生活支援施設(白鳥寮)は、2年連続で年間利用充足率95%以上を確保することができた。
- ・ 出産育児等により運営体制リーダー層7名中3名が休職となったが、現員でのフォローもしくはバックアップ等回りの的確なサポート等により支援・対応力を維持しつつ、個々人の成長、組織力強化につながった。
- ・ 支援の質的向上のためのチームケア強化を目指し、合議による支援計画作成に向けた各担当横断でのミーティングを定例化し定着した。
- ・ 法人内連携による利用者の中間の就労支援に取り組み、外国籍1名を含め計5名の入所者が隣接の泉苑に就労することができた。
- ・ 3月、新型コロナウイルス感染予防のため休校となった法人職員の子ども(小学生)を対象とする事業所内学童保育を実施した。

1 利用者サービスの向上

- ・レクリエーションおよび世代間交流を目的とする泉苑との交流行事を計4回季節ごとに実施した。
- ・保護者の負担軽減および子どもの食育を目的とする給食「しらとり食堂」を毎月1回実施した。
- ・年間を通じて、全事業において苦情相談はなかった。

2 地域支援の定着

- ・法人事業所内保育「白鳥ホリデールーム」の対象を、兄弟学童まで拡大した。
- ・地域公益活動としての学習サポートを行事を含め43回実施し、のべ160名の児童が参加した。
- ・毎月のケース会議には、府中市母子自立支援員および市子ども家庭支援センター相談員が参加し、利用者の自立促進、課題解消、アフターケアそれぞれのための情報共有、多様な視点での意見交換を行った。

3 職員力の強化

- ・厚みのある職員体制を活かし、常勤および非常勤職員が、業務に支障をきたすことなく各々の職責に応じた研修に参加することができた。
- ・育成およびコミュニケーションを目的とする法人内(施設体験)交換研修を実施した。
- ・3施設合同による事例検討会を計3回実施した。
- ・法人研修により、基本職務要件の理解と定着に取り組んだ。

4 組織力の強化

- ・業務の適正配分のための役割分担、実習生担当等の見直しを行った。
- ・新システム導入により、記録等が整備され業務改善につながった。
- ・職員による安全対策強化を目的とする、事故防止推進委員会、安全確認巡回を毎月実施した。
- ・経営会議を中心とする会議体によるガバナンスに基づき、規律ある経営判断を行った。

5 財務の健全化

- ・母子生活支援施設の安定稼働により、積立金3%以上の確保を達成した。
- ・トワイライトステイ事業は、新型コロナウイルスの流行の影響もあり、想定以上の利用児数の減少となった。
- ・上記と同様に当初順調に稼働した緊急一時保護事業も、利用延べ人数が前年を約1.5割程度下回った。
- ・適当な制度を見いだせず、地域公益活動に関する助成金申請等の目標達成には至らなかった。
- ・千代田区介護福祉従事者子育て支援事業は、年間を通じて利用者1名に留まった。